

# 徳川宗春公 略歴年譜

宗春ロマン隊  
喜多川遊歩

- ・尾張藩の事項のうち太字は宗春公関連
- ・' ? ' は風説に基づくもので、事実か否か不明
- ・年齢の○は、生まれる前の年数、太字は数え歳、普通は没後年数
- ・() 内の数字は数え歳

和暦	西暦	年齢	尾張藩関連事項	日本関連事項	主要人物生誕逝去	その他
延宝五年	1677	⑱			・大岡忠相生	
	1678	⑱		・坂田藤十郎、大阪に歌舞伎（和事）を開く	6/15 後水尾天皇中宮徳川和子(72) 崩御	
延宝八年	1680	⑳		8/21 徳川綱吉五代将軍に就任	5/8 第四代将軍徳川家綱(40) 薨去 6/21 成瀬正幸（後の尾張藩附家老）誕生 8/19 後水尾天皇(85) 崩御 9/14 太宰春台誕生	
天和元年	1681	㉑		4 小倉事件	7/1 浅野吉長誕生	
元和二年	1682			2/24 霊元天皇、序列を無視して、親幕派の左大臣近衛基熙を飛び越して、右大臣一条冬経(兼輝)を関白に。 ・朝鮮通信使、七回目の来日		
天和三年	1683	㉒		2 霊元天皇、朝仁親王(東山天皇)の約三百年ぶりに立太式挙行。皇太子の名が復活。	・深田慎斎（後の尾張藩儒官）、近江に誕生	
貞享元年	1684	㉓		8 老中堀田正俊刺殺される	10 吉宗(紀州二代藩主光貞四男)生 ・石河正章誕生（後の家老）	
貞享二年	1685	㉔			9 石田梅岩(石門心学)誕生 ・石河正武(後の附家老竹腰正武)生	
貞享三年	1686	㉕		9 隆光、桂昌院と綱吉の帰依を受け、こ	1 松平乗邑誕生(後の老中)	

			・八事山興正寺開山	の後、江戸城にて数度の安鎮法を修する	・石河政朝（正武の実弟）生	
貞享四年	1687	⑨		2 生類憐れみの令 3 霊元天皇譲位 3 東山天皇即位 10 霊元上皇主導により大嘗祭の再興 ・幕府、陽明学者の熊沢蕃山蟄居謹慎	・神尾春央(後の勘定奉行)誕生	
元禄元年	1688	⑧	・八事山興正寺尾張第二代光友の帰依を受け尾張徳川家の祈願寺に	1 井原西鶴「日本永代蔵」 ・大阪堂島の新地ができる 11 牧野成貞・柳沢吉保御側用人に就任 ・唐人屋敷を長崎郊外に建設		
元禄二年	1689	⑦		・松尾芭蕉奥の細道	10 吉通(四代藩主)生	
元禄三年	1690	⑥		1 親幕派の左大臣近衛基熙、関白に 10 捨て子禁止令 10 水戸光圀隠居 綱條第三代水戸藩主に		
元禄四年	1691	⑤		2 昌平坂に湯島聖堂 ・光圀西山荘に隠棲	8 熊沢蕃山(73)逝去	
元禄五年	1692	④		・江戸での寺院建立禁止令 ・善光寺如来の有無の検分 ・東大寺大仏修復され開眼供養	2 継友(六代藩主)生	
	1693				12 一条兼香誕生	
元禄六年		③	4 祖父尾張第二代光友隠居 4 父綱誠第三代尾張藩主に		9 井原西鶴逝去	
元禄七年	1694	②	・吉見幸和、名古屋東照宮祀官に	2 高田馬場の決闘 4 京、賀茂葵祭再興	9 兄、松平義孝誕生 ・尾張柳生五世柳生連也斎逝去 10 松尾芭蕉逝去	
元禄八年	1695	①		7 円空逝去 9 貨幣の改鋳		
	1696			12 吉通(8)、従四位下に叙し、		

			右兵衛督に			
元禄九年		1	10 宗春（万五郎）誕生[三代藩主綱誠(45)の二十男(三十四子)]	・光友、興正寺に大日如来像を ・元禄大飢饉	5 兄、松平通温誕生 10 宗春（万五郎）誕生	
元禄十年	1697	2		・大阪堂島に米の取引所		
元禄十一年	1698	3	・綱誠、天野信景に「尾張風土記」編纂を命じる 宝暦二年(1752)に「張州府志」として完成	4 紀州光貞隠居 綱教、第三代紀州藩主に	12 祖母千代姫(62)逝去	
	1699					
元禄十二年		4	6 兄吉通(11)が第四代藩主に		6 父綱誠(48)江戸市ヶ谷邸で薨去	
元禄十三年	1700	5			10 祖父光友(76)薨去 12 水戸藩第二代徳川光圀(73)薨去	
元禄十四年	1701	6		3 松の廊下事件	3 契沖逝去	
元禄十五年	1703	8		12 赤穂浪士討ち入り		
元禄十六年		8	⑩成瀬正幸、附家老に	1 左大臣鷹司兼熙、関白に ・近松門左衛門「曾根崎心中」 11 元禄大地震		
元禄十七年 宝永元年	1704	9		③初代市川團十郎逝去 二代目市川團十郎襲名		
宝永二年	1705	10	6 綱誠側室、吉通生母本寿院を乱行のために尾張藩四谷邸に蟄居謹慎させる。後に名古屋御下屋敷に。 7 後の八代藩主となる宗勝、尾張藩御連枝川田久保松平家に誕生。	9 吉宗、紀伊家五代藩主に	3 伊藤仁斎逝去 5 紀州綱紀薨去 頼職、第四代藩主に 6 桂昌院薨去 6 諦忍妙龍誕生 8 紀州光貞薨去 9 紀州頼職薨去	
宝永三年	1706	11	・石河正章（竹腰正武の兄）家老に	11 柳沢吉保大老格に ・近衛基熙、江戸へ下向し、徳川家宣正妻の娘熙子と対面		
宝永四年	1707	12		11 親幕派の近衛家熙、関白に		

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士山宝永大噴火 宝永山ができる</li> <li>・善光寺本堂再建</li> </ul>		
宝永五年	1708	13	<b>1 吉通より諱通春を授けられる</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関孝和（数学者）逝去</li> </ul>		
宝永六年	1709	14	3 竹腰正武(25)が附家老に	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生類憐れみの令解除</li> <li>5 家宣六代将軍に 新井白石将軍侍講に 間部詮房御側御用取次に</li> <li>6 東山天皇讓位 中御門天皇即位</li> <li>6 近衛家熙、関白から摂政に</li> <li>7 七代将軍となる家継誕生</li> <li>10 親幕派の近衛基熙 江戸時代最初の公家の太政大臣に</li> <li>・東大寺大仏殿再建</li> <li>・親幕派近衛家熙摂政に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 五代将軍綱吉薨去</li> <li>6 成瀬正泰誕生</li> <li>11 初代坂田藤十郎逝去</li> </ul>	
	1710					12 東山上皇崩御
宝永七年		15		<ul style="list-style-type: none"> <li>・近衛基熙、江戸に下向し 二年間神田御殿に滞在</li> </ul>		
	1711			12 親幕派近衛家熙、太政大臣に		
正徳元年		16		<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸大火</li> <li>・西国・東海道で大風雨</li> <li>・朝鮮通信使、八回目の来日</li> <li>・新井白石の建白により 朝鮮使の扱いを簡素化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 尾張藩主吉通の嫡子 徳川五郎太誕生</li> </ul>	
	1712				12 徳川家重誕生	
正徳二年		17	・兄の通温、江戸へ出府し 従四位下侍従安房守に	8 九条輔実、摂政に	10 六代将軍家宣薨去	
正徳三年	1713	18	<b>4 江戸に移り住む</b> <b>星野織部藤馬を小姓とする</b> ⑤宗春御勝手番金森数右衛門 吐血頓死 共に江戸に下った朝倉平左	4 家継七代将軍に	<ul style="list-style-type: none"> <li>5 榊原政岑誕生</li> <li>⑤御連枝陸奥国梁川藩の初代藩主 松平出雲守義昌(63)逝去</li> <li>7 兄吉通(25)薨去</li> <li>8 近姫誕生(後の養女：実父は御連)</li> </ul>	

			衛門 が自害 7 五郎太五代藩主に 10 継友(22) 六代藩主	8 霊元上皇、落飾して法皇に	枝梁川藩二代藩主松平義方) 9 荻原重秀逝去 10 五郎太(3) 逝去	
	1714		<b>12 元服 求馬通春と名乗る</b> ・兄の通温、少将に		6 奈良屋茂左衛門(四代目) 逝去	
正徳四年		19		1 江島生島事件	8 貝原益軒逝去 11 柳沢吉保逝去	
正徳五年	1715	20	8 兄義孝、高須藩を継承	・東照権現(家康) 百回忌	3 後の宝泉院誕生(宗春の側室) 8 高須藩初代松平義行(60) 逝去	
	1716			12 田安宗武(吉宗次男) 誕生		
正徳六年		21	<b>2 将軍家継にお目見え</b> <b>3 譜代衆となる</b>	6 尾形光琳逝去	4 七代将軍家継薨去	
享保元年			<b>7 従五位下主計頭叙任</b> ・松平義孝、従四位下少将に	8 吉宗(33)、第八代将軍に (享保の改革) 11 九条輔実、摂政から関白に		
享保二年	1717	22		2 大岡忠相(41) 江戸南町奉行に 9 岡崎藩水野忠之、老中に		
享保三年	1718	23	<b>4 疱瘡に罹る</b> 4 兄、通温尾張国内に幽閉	9 宗堯第四代水戸藩主に ・紀伊国屋文左衛門、深川富岡八幡に 総金張りの神輿三基を奉納	9 水戸綱條薨去	
享保四年	1719	24	9 朝鮮使節団が名古屋に宿泊 9 附家老成瀬隼人正宅延焼	・朝鮮通信使、九回目の来日 使節に対する接待を 七回目と同じように戻す ・相对済令		
	1720		<b>12 従四位下に叙任</b>			
享保五年		25	10 星野藤馬を自らの御徒頭・ 御小性惣役に	・江戸町火消いろは組		

	1721			<ul style="list-style-type: none"> <li>・禁令書を緩和</li> <li>・水戸藩から幕府に『大日本史』献上</li> </ul> 12 近松門左衛門「心中天網島」初演		
享保六年		26	<b>1 吉宗より鷹狩の雁を拝領</b>	2 田中丘隅「民間省要」  ⑦幕府、朝廷に『大日本史』出版の許可願（一条権大納言兼香が照査） <ul style="list-style-type: none"> <li>・目安箱設置</li> <li>・諦忍(17)、八事山興正寺に入る。</li> <li>・諸社に祭礼の華美を禁ず</li> <li>・小石川薬園</li> </ul>	3 御連枝陸奥国梁川藩第2代藩主松平義方(36)逝去	
享保七年	1722	27	吉通の長女千姫、九条幸教に嫁ぐ	1 二条綱平、関白に <ul style="list-style-type: none"> <li>・上げ米の制を実施</li> <li>・新田開発奨励</li> <li>・質流地禁止令</li> <li>・諸宗僧侶法度制定</li> <li>・幕府、心中物（芝居・浄瑠璃）を禁ず</li> <li>・読売の禁止（著者名・出版社名の明記を命じる）</li> </ul>	9 親幕派の近衛基熙薨去	
	1723			12 小石川養生所設置		
享保八年		28	<b>・吉宗より鷹狩の鶴料理を頂戴</b>	4 松平乗呂老中に 6 足高の制 <ul style="list-style-type: none"> <li>・霊元法皇、下御霊神社に祈願文</li> </ul>		
享保九年	1724	29	<b>4 長女 富 誕生</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・市川甚左衛門正好、上松(木曾材木奉行)奉行兼水奉行から裏木曾代官に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・儉約令で衣服の売買を制限</li> </ul>	<b>4 長女 富 誕生</b>	
	1725				11 近松門左衛門逝去	
享保十年		30	<b>8 星野藤馬を御用達並役に</b> 8 継友正室安己姫逝去(近衛家熙娘)		5 新井白石逝去  9 奈良屋茂左衛門(五代目)逝去	

			・尾張藩江戸麹町邸焼失		10 九条植基誕生。 実母は尾張四代藩主吉通の子千姫。	
	1726		12 浅井東軒、尾張藩御殿医に			
享保十一年		31	<b>1 次女 補誦 誕生</b> <b>3 星野藤馬を御用達本役に抜擢</b>	6 近衛家久関白に ・物価取締令	<b>1 次女 補誦 誕生</b>	
	1727		12 <b>三女 八千 誕生</b>		<b>12 三女 八千 誕生</b>	
享保十二年		32	・尾張藩より尾張一宮の三八市が許可	・インドの白牛が輸入され、安房嶺岡牧場に放牧	5 九条家に二条宗基誕生。 母は尾張四代藩主吉通の娘千姫	
享保十三年	1728	33	<b>2 星野藤馬を御馬廻組に</b> 3 川田久保家の松平友著逝去  <b>7 実母の見舞いに名古屋に</b> <b>9 江戸に戻る</b> 9 吉通の次女、川田久保家の宗勝 (尾張八代藩主) に嫁ぐ	4 吉宗、将軍家の日光参拝を 65年ぶりに再開 6 象が輸入される  ・天一坊問題発覚 ・靈元法皇、再び下御霊神社に祈願文 ・右大臣一条兼香東宮傳兼務	<b>1 四女 頼 (後の近衛勝子誕生)</b> 1 荻生徂徠逝去  7 九条幸教(29) 薨去 (正妻：徳川吉通娘千姫)	
	1729		12 川田久保家の友淳 (尾張八代藩主宗勝) 従五位下但馬守に			
享保十四		34	<b>8 陸奥梁川三万石を拝領し大名に</b> <b>12 従四位下侍従に</b>	3 太宰春台「経済録」出版 4 天一坊事件終結 4 靈元法皇・中御門天皇に象が拝謁「広南従四位白象」として象が参内 5 象、江戸城に  ・石田梅岩、京で石門心学の塾を開講 ・石河政朝(竹腰正武の実弟) 目付に	5 陸奥国梁川藩第3代藩主松平義真(16) 逝去	

				・『女大学』刊行		
	1730					
享保十五年		35	<p>3 御連枝川田久保家の松平友淳 (尾張八代藩主宗勝)正妻で吉通の娘逝去</p> <p><b>4 兄継友と象を見物</b></p> <p><b>5 四谷大久保に屋敷を拝領</b></p> <p><b>9 日光社参</b> <b>尾張第七代藩主となる</b> ・岐阜に縮緬技術が伝わる</p>	<p>4 上げ米の制を廃止</p> <p>6 藩札の発行を許可</p> <p>6 水野正之老中を辞す</p> <p>・京で尾上菊五郎初舞台</p> <p>・大阪堂島米仲買仲間株仲間結成</p> <p>・神社仏閣の修復請願時に限り富くじを許可する</p>	<p><b>12 嫡男万五郎(国丸)誕生</b></p> <p><b>1 五女 八百 誕生</b> 7 兄松平通温、幽閉中の名古屋で逝去</p> <p><b>8 六女 以津 誕生</b> 9 浅野家正室前田節子、夫の吉長が広島に居る間に江戸藩邸で割腹自殺</p> <p>11 兄継友(39)逝去</p>	
享保十六年	1731	36	<p><b>1 公儀の法度・代々の法規を守るべき令を出す</b></p> <p><b>1 上野予参</b></p> <p><b>1 正四位下左近衛少将に叙任</b></p> <p><b>1 將軍吉宗より一字を賜り徳川宗春となる</b> <b>従三位中將に叙任</b></p> <p><b>2 幕閣を饗応</b></p> <p><b>3 参議に</b></p> <p><b>3 「温知政要」執筆：深田慎斎が補助</b></p> <p>3 母宣揚院が御下屋敷から三之丸東御殿に</p> <p><b>4 参勤交代で名古屋に 東海道</b> <b>黒の馬に黒づくめの刺繍が</b></p>	<p>1 田安宗武(15)、田安德川家を創設、 ・朝廷は南北朝問題があり『大日本史』の出版を不許可</p> <p>4 二十万石以上の大名に江戸・大坂での米買い上げを指示、米価引き上げの</p>		

	<p>華やか にされた衣装?で名古屋入府</p> <p>4 建中寺参拝</p> <p>4 東照宮祭礼を享保八年以前の</p> <p>古式通り華やかに</p> <p>5 諸士に芝居見物を許す</p> <p>5 嫡子万五郎、戸山屋敷へ</p> <p>5 吉宗より、書院番頭戸田土佐守忠胤存問のお使い</p> <p>5 三女 八千(6)逝去</p> <p>6 御側風説書を書き、御側向へ渡す</p> <p>6 天王崎天王船祭： 御深井濠に津島祭を摸す。</p> <p>7 本寿院、本町桔梗屋宅で若宮祭を見物</p> <p>7 五女 八百(2) 逝去</p> <p>7 星野藤馬を星野織部と改めさせ、奥組とする。</p> <p>7 継友の破却した御下屋敷の作事普請なる</p> <p>7 白牛に乗って御下屋敷に</p> <p>7 水筒先の小納戸役兼松善蔵の屋敷で芝居を上覧。</p> <p>8 生母宣揚院汐湯治のため知多に</p> <p>8 石蔵造営を命じる</p> <p>8 京の九条殿に三千両寄付</p> <p>8 橘町に歌舞伎・狂言など</p> <p>9 清寿院において芝居初興行</p> <p>9 六女 以津(2)逝去</p>	<p>ため。</p> <p>6 総見寺で織田信長公百五十年忌</p> <p>・三年間の儉約令 ・麻疹流行</p> <p>参考) 欧州では 1730 年代は、啓蒙思想が発達し始めたとき</p>	<p>5 三女 八千(6)逝去</p> <p>5 四代藩主吉通正室九条輔子(42)逝去 吉宗、使者を名古屋と尾張藩邸に</p> <p>9 六女 以津(2)逝去</p>	
--	---	---	---	--

			<p>9 知多にて湯治をしている母を見舞う</p> <p>9 星野織部を御徒士頭とする。</p> <p>9 岐阜伊奈波神社で大桑町子孫兵衛に社寺興行を許可する</p> <p>11 小牧・犬山・入鹿・小折・寄木・宮田・生駒因幡屋敷へ</p> <p>・名古屋城権現山の南に浪之間が</p> <p>できあがる</p> <p>・西小路遊郭（日置村東輪林寺西）、</p> <p>富士見遊郭(前津村長栄寺東)</p>			
享保十七年	1732	37	<p>1 御手摺版の『温知政要』擦り終わり配布し始める。</p> <p>1 星野織部を御用人とする</p> <p>1 竹腰正武上屋敷へ来る</p> <p>2 「条々」二十一ヶ条を出し、藩祖義直公への回帰を宣言。</p> <p>2 星野織部を御側同心頭とする</p> <p>2 宮小路豊後掾名古屋に来て、山王稲荷などで興行</p> <p>3 衣冠束帯馬上で熱田参拝</p> <p>3 参勤交代で江戸へ</p> <p>3 嫡子万五郎を伴って市ヶ谷屋敷へ</p> <p>・春、『温知政要』が流行</p> <p>5 江戸藩邸内の嫡子万五郎の節句飾りを町人に開放</p> <p>5 富士見原で花火が打ち上げ</p>	4 四月朔日から九月九日重陽まで江戸城内での足袋を禁じる		

		<p>られる</p> <p>5 御連枝川田久保家の松平友淳（尾張八代藩主宗勝）が高須藩主になり義淳と名乗る</p> <p><b>5 幕府が上使二名目付（滝川元長・石河政朝）を尾張藩邸に遣わし三箇条の詰問 九月という説もあり</b></p> <p>⑤所司代牧野河内守英成により『温知政要』の出版を禁じられる</p> <p>⑤義孝の喪が明けて、吉宗と対面</p> <p>6 石河出羽守正章・山澄淡路守致仕</p> <p><b>6 宗春罹病する</b></p> <p><b>7 將軍吉宗御側衆渋谷隠岐守良信見舞いに</b></p> <p><b>8 將軍吉宗御側御用取次加納遠江守久通お使い見舞いに</b></p> <p><b>8 病が全快し將軍吉宗に対面し御礼言上</b></p> <p><b>8 星野織部を年寄役並に</b></p> <p>9 成瀬正幸隠居し、成瀬正泰が附家老に</p> <p>10 葛町に遊郭開業</p> <p>10 お薫の方側室に</p> <p><b>11 清戸（東京都清瀬市）の尾張藩御鷹場へ行く上使滝川播磨守を饗応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋の『役者評判記』が出版</li> <li>・御側足輕、尾張藩内を廻る</li> </ul> <p><b>11 嫡男万五郎の鬘置の祝</b></p>	<p>9 反幕派の靈元上皇崩御</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西国、大飢饉</li> <li>・吉宗、八木將軍と呼ばれる</li> </ul>	<p>5 兄で尾張藩の分家美濃高須藩主松平摂津守義孝逝去（39）</p>	
--	--	--	--	--------------------------------------	--

		<p>将軍吉宗より祝の使いあり 12 従三位中納言に叙任</p>			
	1733				
享保十八年	38	<p>1 尾張藩邸にて老中たちを饗応</p> <p>3 参勤交代で名古屋へ 4 名古屋入府の際に、鳴海宿を 夜中に発ち、葛町の郭を見学し、 未明に城に入る。</p> <p>4 建中寺と東照宮に詣る 5 将軍吉宗の小姓組番頭松平下野守 正常、お使いで名古屋に来る</p> <p>5 熱田社参 本町通を歩き、 群集する</p> <p>6 広井天王崎神社の祭礼で津島祭を 模し、船で提灯を灯し、花火を打 ち上げる。船にて見物。</p> <p>6 富士見ヶ原で人形福引が流行し、 富くじと似ているとし停止</p> <p>6 富士見ヶ原での夜芝居・宮古路</p>	<p>1 江戸で御用米商高間伝兵衛宅に 群衆が押し寄せ打ち壊し。 1 近衛家久、太政大臣に</p> <p>4 鷹司尚輔薨去し、一条兼香の子の 基輝が鷹司家当主に</p> <p>5 隅田川の花火大会が始まる ・ 餓死者全国で約 170,000 人</p>		

		<p>豊後掾・人形遣い出語りが繁盛する</p> <p>6 国太夫節が流行</p> <p><b>6 長女 富 (10) 逝去</b></p> <p>7 西小路遊女の踊り</p> <p>7 万五郎、国丸と改名</p> <p><b>8 京嵯峨釈迦像ご開帳に寄付</b></p> <p><b>9 藩内巡検のために美濃に赴く</b></p> <p><b>岐阜で鶺鴒見物</b></p> <p><b>岐阜で古今稀の雑踏</b></p> <p>9 橘町裏芝居で宗春を模した芝居が始まる</p> <p><b>10 知多郡島巡り</b></p> <p><b>11 知多巡行</b></p> <p>11 闇の森心中未遂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大須裏門開く</li> <li>・八事山興正寺に実母宣揚院が</li> </ul> <p>紋付戸帳。錦地一枚を寄付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京・大阪より勸進相撲・国太夫節・舞・狂などが名古屋に</li> <li>・河村秀根 (11) を嫡男国丸 (万五郎) の小姓にする</li> <li>・建中寺に参詣 二間斗りの長煙管</li> <li>・乾御殿完成</li> </ul>		<p><b>6 長女 富 (10) 逝去</b></p> <p>10 九代藩主宗睦、高須藩で誕生</p>	
	1734	<p><b>12 二万人規模の木曾山御猪狩をしようとするが実現できず</b></p>			
享保十九年		<p><b>39</b></p> <p>1 宮古路豊後掾、袋町筋黄金薬師 境内で、前年の闇の森心中を</p>		<p>1 尾張藩儒学者で右筆を勤めた朝比奈文淵逝去</p>	

			<p>題材 にした新作「睦月連理つばき」が 上演される</p> <p><b>2 岐阜伊奈波神社で水茶屋と小見世物の常設を許可</b></p> <p><b>3 参勤交代で江戸に将軍吉宗と対面</b></p> <p><b>5 諦忍妙龍(30)を八事山興正寺第五世に任命</b></p> <p><b>7 清戸で放鷹</b></p> <p>8 名古屋門前町清寿院境内で勸進相撲</p> <p><b>11 嫡男国丸(万五郎)の袴着の式</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋に宮古豊後掾が江戸に下り、</li> <li>名古屋の心中ものを上演し席巻</li> <li>・豊後節流行</li> </ul>	<p>3 弘法大師九百年御遠忌法要各地で行なわれる</p> <p>10 水戸藩、礼儀類典を公儀に献上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕府、朝廷の意向に逆らい『大日本史』刊行</li> </ul>	<p>4 紀伊国屋文左衛門逝去</p> <p>8 室鳩巢逝去</p>	
享保二十年	1735	40	<p><b>3 江戸在番の藩士に遊興徘徊と博打を禁ずる</b></p> <p><b>3 参勤交代で名古屋に</b></p> <p><b>4 尾張藩御目付け庵原平左衛門より諸役人へ遊興徘徊と博打を禁ずる</b></p> <p><b>宛名添簡廻る</b></p>	<p>3 中御門天皇讓位 桜町天皇(16)即位</p> <p>8 桜町天皇即位の祝儀として五万石以上の大名に献銀を命じる</p> <p>8 大名・旗本が遊里戯場への出入りを禁じる</p> <p>9 一橋宗尹独立</p>		

			<p>9 江戸藩邸で嫡子国丸（万五郎）(7)逝去</p> <p>10 次女補誦(10)名古屋にて 逝去</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将軍吉宗公より拝領した朝鮮人参、洪州甘を御下屋敷御人參畑御薬園で栽培開始</li> <li>・萱津より観音像を下御深お庭へ移して二間四面のお堂を建立</li> <li>・熱田薬師内の大黒像を御深井丸へ移しお堂を建てる</li> <li>・河村秀根を宗春付き小姓にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三代目市川團十郎襲名</li> <li>二代目團十郎は二代目市川海老蔵となる。</li> <li>・米価調整令</li> </ul>	<p>9 江戸藩邸で嫡子国丸(万五郎) (7) 逝去</p> <p>10 次女補誦(10)名古屋にて 逝去</p>	
	1736		12 慈忍の間？で節分 金の烏帽子			
享保廿一年		41	<p>1 建中寺に参拝</p> <p>3 参勤交代で江戸に 竹腰山城守同道</p> <p>3 将軍吉宗に拝謁</p> <p>3 遊女屋を三箇所から一箇所に 他国の遊女を送還 芝居小屋も新規は取り払う</p> <p>4 西小路より失火 付近延焼</p> <p>5 名古屋で改鑄による騒ぎ ・犬山に寺社奉行書設置</p>	4 京奉行所に臨時の目安箱		
元文元年			<p>7 養女近姫(御連枝陸奥国梁川藩第2代藩主松平義方娘)を上杉宗房と婚約させる</p>	<p>5 元文の改鑄</p> <p>6 公定米価を廃止</p> <p>8 大岡忠相寺社奉行に 松波正春江戸町奉行に</p> <p>8 幕府、場内での落書き浮話禁止</p> <p>8 大阪に目安箱</p>	7 伊藤東涯逝去	

			・名古屋城内に御学問所の 慈忍の間、完成	8 二条吉忠、関白に  ・初代菊五郎と 二代目海老蔵（二代目團十郎）との 共演が大当たり	0 親幕派の近衛家熙薨去	
元文二年	1737	42	3 参勤交代で名古屋に  5 熱田神宮に参詣 5 将軍吉宗小姓番頭戸田近江 守定浩、お使いとして名古屋 に 5 大乘院勧進相撲  9 養女近姫と上杉宗房が結婚 10 橋町役所を置く 11 次男龍千代誕生 ・町在に借上金を仰せ付ける 12 次男龍千代 (1) 逝去	4 象・白牛の油薬の販売店が二件に 5 寛永寺本坊等が焼失 5 家主・五人組に相談なしの訴訟を 禁じる  6 神尾春央、勘定奉行に 6 松平乗邑、勝手掛老中に 8 反幕派の左大臣一条兼香、関白に  11 蓄銭禁止	5 十代将軍家治誕生  8 関白二条吉忠薨去 8 親幕派の近衛家久薨去  10 儒官の深田慎斎 (55) 逝去 11 次男龍千代誕生  12 次男龍千代 (1) 逝去	
	1738					
元文三年		43	2 三の丸天王社、末広若宮へ 参詣 春に、河村秀根 (16) を元服さ せ、自ら前髪に鉢を入れ加冠 する 3 参勤交代で江戸に 3 将軍家に拝謁	2 小普請奉行石河政朝 (竹腰正武実弟) 江戸北町奉行に  3 大阪に銅座新設		

		<p>3 幕閣を饗応</p> <p>4 家治に初お目見え</p> <p>6 尾張藩重臣が宗春の許可を得ず 緊縮を履行することを各役の代表に伝え、遊女屋を全廃する</p> <p>6 南寺町瑞宝寺より出火</p> <p>7 遊郭跡は畑となる</p> <p>8 尾張藩重臣により百姓人に別金 一万五千両を課負</p> <p>10 尾張藩重臣により名古屋岐阜などの町に対し上納金三万五千両を課負</p> <p>・新吉原三浦屋の春日野を身受け?</p> <p>・老中松平乗邑、尾張藩の家老に不行き届きを諭す</p>	<p>6 右大臣二条宗熙薨去し、二条宗基が当主に。尾張四代藩主吉通の娘が実母</p> <p>6 大嘗会の許可</p> <p>9 磐城平一揆</p> <p>・大嘗会が五十年ぶりに復活</p> <p>・山城で煎茶が始まる</p> <p>・宮古路豊後掾の文金風が大流行</p> <p>・公事方御定書上巻が仮完成</p> <p>・一条道香、内大臣続いて右大臣に</p> <p>・荷田在満、大嘗会儀式具積を執筆</p>	<p>6 右大臣二条宗熙薨去</p> <p>6 儒者小出侗齋逝去</p> <p>8 泉光院（継友公母）逝去</p>	
	1739		12 但馬国生野銀山騒動		
元文四年		<p>44 1 尾張藩家老に宗春の隠居蟄居謹慎を命ずる</p> <p>1 従弟高須藩主宗勝(35)が第八代藩主に 上使は従兄の浅野吉長、松平頼貞</p> <p>3 七ヶ年儉約令</p> <p>4 四女頼、宗勝の養女に</p> <p>4 星野織部、隠居</p> <p>9 木曾經由で名古屋 三の丸東大手内西角邸に幽閉</p>	<p>1 吉宗、二条宗基に宗の一字を与え、一条兼香などに献金</p> <p>2 吉宗、京のお使いが帰ると二の丸に渡り、天英院(近衛熙子)に面会</p> <p>2 鳥取藩で元文一揆</p> <p>9 豊後節禁止令</p>	<p>2 綱誠側室、吉通生母本寿院(75)名古屋御下屋敷で逝去</p>	

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・春に浪之間と慈忍之間を破却</li> <li>・約十年間、名古屋府下の芝居が禁止となる</li> <li>12 河村秀根、免職</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石田梅岩「都鄙問答」を著す</li> <li>・貿易制限令</li> <li>・将軍家より、関白一条兼香に和歌の名人を推挙するように要請</li> <li>・兼香、一事中風となり息子道香を内覧とする</li> <li>・荷田在満の大嘗会便蒙を発禁処分に荷田在満を十年間の閉門蟄居に</li> </ul>		
元文五年	1740	45	<p><b>5 前中納言と称されるようになる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市川甚左衛門裏木曾代官から初代木曾奉行に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 年始の吉書奏再開</li> <li>5 三奉行・大目付・目付の会合時の宴会禁止</li> <li>11 新嘗会再開 280 年ぶりに</li> </ul>		
寛保元年	1741	46		<ul style="list-style-type: none"> <li>4 象が払い下げられる</li> <li>6 播州姫路藩主榊原政岑、新吉原の高尾太夫を見受け</li> <li>10 榊原政岑 (29)、乱行を咎められ隠居蟄居謹慎</li> <li>・朝廷の礼典関係書籍の新規出版を禁じる</li> </ul>		
寛保二年	1742	47	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 生母宣揚院、八事山興正寺に浄土変相一鋪寄付。諦忍妙龍を導師とした開眼供養の大法会。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 三代目市川團十郎逝去</li> <li>・公事方御定書完成</li> <li>・寺社勸化制を定める</li> <li>・関東大水害</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 六代将軍家斉正夫人天英院(近衛熙子)薨去</li> </ul>	
	1743				<ul style="list-style-type: none"> <li>12 興教大師六百年ご遠忌法要各地で</li> </ul>	
寛保三年		48		<ul style="list-style-type: none"> <li>3 甘藷の栽培を幕府が奨励(青木昆陽)</li> <li>6 緒方乾山逝去</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 生島新五郎逝去</li> <li>8 成瀬正幸逝去</li> <li><b>9 実母宣陽院逝去(69or81)</b></li> </ul>	
延享元年	1744	49	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河村秀根(22)、名古屋東照宮吉見幸和に入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6 石河政朝大目付に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9 石田梅岩(60)逝去</li> </ul>	

			門 ・附家老竹腰正武、 美濃志津野(関市)に正武寺を 建立			
延享二年	1745	50		9 吉宗隠居し西の丸に入り大御所に 10 松平乗呂老中罷免 11 家重第九代将軍に ・田安宗武、一橋宗尹、 三年間登城禁止		
延享三年	1746	51	・養女近、上杉宗房と死別し、 蓮胎院となる		4 松平乗呂逝去	
	1747			12 一条道香関白に		
延享四年		52		5 一条道香摂政に 7 桜町天皇(28)譲位 桃園天皇(7)即位	5 太宰春台逝去	
寛延元年	1748	53		8 仮名手本忠臣蔵初演 ・朝鮮通信使、十回目の来日		
寛延二年	1749	54	・河村秀根、奥組となるが直ぐ に病のため辞職	・会津藩大一揆		
寛延三年	1750	55		・人口調査 ・百姓の名字帯刀を禁ず	4 桜町上皇(31)崩御 5 星野織部逝去	
宝暦元年	1751	56			<b>5 上杉宗房室 養女 近(39) 逝去</b> 6 大御所吉宗(68)薨去 7 上杉鷹山、高鍋藩秋月家に誕生 8 一条兼香(59)薨去 12 大岡忠相(76)逝去	
	1752					
宝暦二年		57	7 病を得る ・河村秀根、宗春の奥番となる ・松平君山『張州府志完成』		1 浅野吉長(72)逝去  8 尾張藩の儒学者の木下蘭皐逝去	
宝暦三年	1753	58	・浅井凶南、尾張藩御殿医に	9 宇都宮藩、勅摺騒動	7 尾張家御殿医浅井東軒(82)逝去 7 元家老石河正章(70)逝去	

宝暦四年	1754	59	6 藩主宗勝公が幕府に、宗春公の城外の相応の屋敷への移転の許可を求める 10 宗春、御下屋敷に移転	5 石河政朝江戸城西の丸番頭に 8 郡上一揆など各地で一揆続発 11 四代目市川團十郎襲名 ・宝暦暦開始		
宝暦五年	1755	60	・木全雅直（小刀屋藤左衛門）が宗春の恩赦を願いでて、篠島に流刑にされる。	2 一条道香、関白に		
宝暦六年	1756	61		・石河政朝江戸城西の丸留守居に		
宝暦七年	1757	62	3 娘近衛勝子従三位に	11 五代目市川團十郎襲名 四代目團十郎は松本幸四郎に復す		
宝暦八年	1758	63		・宝暦事件	10 二代目市川團十郎逝去	
	1759				12 松平定信(田安家)誕生	
宝暦九年		64				
	1760		12 竹腰勝起(22)附家老に九代藩主宗勝の実子		12 竹腰正武(77)逝去	
宝暦十年		65	4 八事山興正寺諦忍に祈禱を依頼し、八事山の掛け軸と唐金灯笼を二基寄進	4 家重、大御所に 9 徳川家治第十代将軍に ・田沼政治開始	10 娘近衛勝子(頼) 薨去	
宝暦十一年	1761	66	・家老が松平右近将監宅に呼び出され建中寺参拝を許可 4 建中寺参拝 6 宗睦第九代藩主に 9 宗春直筆の「八事山」一行書・ 打敷・額取立料を八事山興正寺に		4 名古屋東照宮祀官吉見幸和(89)逝去 6 尾張八代藩主宗勝逝去 6 大御所家重薨去	

			<b>寄付</b> 10 小刀屋藤左衛門、流刑地篠島で逝去	12 上田藩で上田騒動（一揆）		
宝暦十二年	1762	67	<b>6 宗春、八事山興正寺に手植えの蓮と氷砂糖を寄進 諦忍住職は返礼として西瓜と詩歌を宗春に</b>	7 後桜町天皇即位	7 桃園天皇崩御	
宝暦十三年	1763	68	<b>9 宗春、八事山興正寺に参詣住持諦忍妙龍(59)と懇談し、その後は真言念仏を日課とする</b> <b>9 侍女達も八事に参詣する</b>			
明和元年	1764	69	<b>10 宗春(69)、御下屋敷にて薨去</b> <b>建中寺にて葬送</b> ・河村秀根、寄合となる	・平賀源内、火浣布（石渡布）発明	<b>10 宗春(69)、御下屋敷にて薨去</b>	
	1765			12 伝馬騒動(関東農民二十万の一揆)	12 一橋宗尹逝去	
明和二年		1	<b>・建中寺に御霊屋建立</b>	8 石河政朝逝去		
明和四年	1767	3		4 上杉鷹山（治憲）米沢藩を継ぐ		
明和五年	1768	4	1 附家老成瀬正泰隠居 成瀬正典附家老に	・大阪佐渡一揆 ・上田秋成「雨月物語」		
明和七年	1770	6				
	1771	7		11 後桜町天皇譲位 後桃園天皇即位		
安永四年	1775	11	4 宗春側室で御下屋敷で終生近侍した宝泉院（お薫の方、猪飼氏）八事山興正寺の諦忍妙龍を自らの住居の古渡に招き、侍女にいたるまで法話を弔問し、齋供を献じる。			

安永八年	1779	15		10 後桃園天皇崩御 光格天皇即位		
	1780	16	3 浅井南溟、尾張藩御殿医に		11 宗春の側室、宝泉院逝去	
天明二年	1782	18	8 尾張藩御殿医、浅井凶南逝去		5 宗春側室で御下屋敷で終生仕え貞幹院（おはるの方）逝去。	
天明三年	1783		藩校の明倫堂開校。 初代学長は折衷学派の細井平州（尾張の農民出身：上杉鷹山の師）			
天明五年	1785	21	・河村秀根、『書紀集解』を出版		7 成瀬正泰逝去	
天明六年	1786	22	<b>8 二十三回忌法要に上使をもって 香典金五十枚</b>	6 興正寺住持諦忍妙龍(82)逝去 9 十代将軍家治薨去		
天明七年	1787	23		4 家斉、第十一代将軍に 6 松平定信老中に（寛政の改革）		
寛政元年	1789	25		参考）フランス人権宣言		
寛政四年	1792	28			・河村秀根逝去(70)	
寛政十一年	1800	36			12 九代藩主宗睦薨去	
寛政十二年			1 一橋斉朝、第十代尾張藩主に			
	1809	45	7 成瀬正典隠居 成瀬正寿が附家老に			
文化九年	1812	48		3 松平定信隠居		
文化十年	1813	49	<b>・五十回忌 謹慎処分解除許されず</b>			
	1814				12 後桜町上皇崩御	
文化十三年	1816	52	・精林庵が江戸下屋敷（戸山）内に創建			
文化十四年	1817	53		3 光格天皇譲位 仁孝天皇即位 ・イギリス船がこの年寄り六年間、しばしば浦賀沖に現れる		
文政元年	1818	54	<b>11 成瀬正寿が、幕府に宗春の</b>			

			<b>赦免を乞う</b>		
文政三年	1820	56			11 成瀬正典逝去
文政四年	1821	57	・御下屋敷東北に仁王山護国寺清久院が創建され尾張藩の祈願所となる。 <b>鎮守に山王権現社。孚式権現社と呼ばれ、宗春を主神とし、家康と義直を合祀する。</b>		
文政十年	1827	63	8 斉朝隠居 斉温(将軍家斉の十九男) 第十一代尾張藩主に		
天保六年	1837	73		4 家斉隠居 9 家慶、第十二代将軍に 大塩平八郎の乱	
天保八年	1839	75	3 田安斉荘第十二代尾張藩主に <b>11 謹慎処分解除 従二位権大納言追贈 歴代藩主に加える許可</b>		3 斉温薨去
天保十一年	1840	76			11 光格上皇崩御
天保十二年	1841	77			①大御所家斉薨去
弘化二年	1845	81	8 田安慶臧が第十二代尾張藩主に		7 家荘薨去
弘化三年	1846	82		2 孝明天皇即位	1 仁孝天皇崩御
嘉永二年	1849	85	6 慶勝(慶恕)、十四代藩主に		4 慶臧薨去
嘉永三年	1850	86			2 第十代藩主斉朝薨去
嘉永六年	1853	89		6 ペリー来航 浦賀沖 10 家定、十三代将軍に	6 十二代将軍家慶薨去
嘉永七年	1854	90	・慶勝、攘夷の七日の祈禱を熱田、一宮、津島に行なわせる	2 ペリー横浜沖に 3 日米和親条約 4 京の都で大火 御所全焼	

				6 安政伊賀地震 11 安政東海地震・安政南海地震		
安政元年			・慶勝、地震後の祈祷を熱田、一宮、津島に行なわせる			
安政二年	1855	91	・慶勝、再び攘夷の七日の祈祷を熱田、一宮、津島に行なわせる	11 安政江戸地震		
安政三年	1856	92	・宗春公の菩提を弔うために、 <b>精林庵を名古屋御下屋敷の御薬園の隣に移転</b>			
安政五年	1858	94	・慶勝、尊皇攘夷を主張し蟄居謹慎 茂徳、十五代藩主に	・安政の大獄始まる ・コレラ流行		
万延元年	1860	96	・精林庵、無量寿院と名称を改める	3 桜田門外の変		
文久二年	1862	98	・慶勝、幕府より悉皆御宥許			
文久三年	1863	99	9 茂徳、隠居 9 義宜、十六代藩主に			
大正二年	1913	149	<b>6 大阪浪花座、尾張宗春卿が上演</b>			
昭和十六年	1941	177	・仁王山護国寺清久院内の <b>山王権現社、門と共に売却される</b> (関ヶ原 首塚に現存)			
昭和二十年	1945	181	・空襲で墓碑破損			
昭和二十六年以降			・建中寺から平和公園に墓碑移転			
平成二十二年	2010	246	7 宗春公の墓碑修復 (宗春ロマン隊)			

<<参考文献>>

『温知政要』徳川宗春 享保十六年  
『徳川実紀』  
『遊女濃安都』（国立国会図書館所蔵）  
『尾張徳川家系譜』（名古屋叢書）  
『尾藩世紀』（名古屋叢書）  
『金府紀較抄』（名古屋叢書）  
『近世の朝廷運営一朝幕関係の展開』久保貴子  
『徳川宗春年譜』尾崎久弥  
『規制緩和に臨んだ『名君』徳川宗春の生涯』  
大石学編  
『徳川宗春 尾張宰相の深謀』加来耕三  
特に安田文吉南山大学教授には多くの参考をお教えいただいた。

『尾張春風伝』清水義範  
『徳川宗春』八頭純  
『尾張の徳川宗春』亀井宏  
『尾張葵風姿伝』高橋和島  
『詳説日本史図録』山川出版  
『日本史年表・地図』吉川弘文館  
『世界史年表・地図』吉川弘文館  
『歌舞伎の歴史』歌舞伎学会  
『通兄公記』  
『翁草』神沢貞幹  
『閑窓自語』柳原紀光  
その他、皇室・公卿・大名家の系譜図を参照

平成 22 年 10 月 28 日 宗春ロマン隊  
遊歩和尚 著